

「心で防災」

滋賀県 野洲市立中主小学校 4年 ^{ひらい}平井 ^{ゆうひ}悠陽

ぼくは、野洲というところに住んでいます。以前、他県で土砂災害があった時に、土地の名前は自ぜん災害や地しつ・地形から付けられていると聞いたことがあります。地名で災害が起こりやすいかどうか、分かるというのです。

ぼくは、母と一緒に調べてみることにしました。すると、滋賀の滋や野洲の洲はさんずいへんで水に関係し、近江の江は入り江を表すそうです。また、えきじょう化げんしょうなどが起こりやすいと書かれてありました。

ぼくの家は野洲川の近くにありますが、野洲川はももとは天井川で、住んでいる土地が低かったそうです。おじいちゃんとおばあちゃんは、むかし川がぞう水するとにげていたと言っていました。今はていぼうがあるので安心して住めます。

地名は土地のりれき書で、むかしの人は土地の名前をつける時にその特ちょうを次の世代の人たちにも、重要な手がかりとなる言葉としてのこしていると言えます。せつかく防災に役立ちそうなのに、最近では市町村の合ぺいなどによって、そうした昔からの名前がどんどん消えていっているそうです。ぼくはとてもざんねんだと思いました。昔にくらべてずい分ぎじゅつが進歩していると思うので、それとあわせて昔の地名をのこしておいたほうがいいと思います。自分が住んでいる所がどんな所か、まず知ることが防災につながるからです。わざわざ調べなくても、見てすぐに分かるという点がとてもいいと思いました。

実さいに土砂災害にあったことはないけれど、ニュースなどで見て、とてもこわいことは分かります。でも、大じょうぶだろうと思う気持ちがひなんをおくらせ、ひ害を大きくすることもあるそうです。もしかしたら、自分のみの周りにも起こるかもしれないと考えておくことが、一番大切だと思います。

いざという時には、小さな子どもからお年よりまで、目の見えない人や耳の聞こえない人にも、すぐに知らせる・分かるようにすることはとてもむずかしいけれど、それも大切なことだと思います。そして知らせを待つだけでなく、自分たちから知ろうと思う気持ちも必要です。

もし、ぼくが災害にまきこまれた時はどうしたらいいのか、家族で話し合いました。学校ではひなん訓練があるけれど、家では一度もそんな話をしたことがなかったので、どこににげたらいいのか、どうしたらいいのかわかりませんでした。お父さんがハザードマップもあるし、学校の町たんけんを調べたりしているはずだと言いました。そういえば、じゅ業で町のたんけんマップを作ったことを思い出しました。あぶない所を調べたり、ひなん場所の前を通った時に、先生がせつ明してくれていました。

小学校やいつも遊んでいる自治会館の前、地いきのコミュニティーセンターにもひなん場所のかんばんが出ています。ちょっとしたことだけど、そういうものに目を向けることが防災につながると思いました。ぼくは4年生なので、下級生の人たちにも教えてあげようと思います。